

平成30年度事業報告書

今年度事業推進上の基本方針

「瀬戸内海環境保全協会」の設立趣意を踏まえつつ、次の方針のもと事業を展開する。

「瀬戸内海の環境保全・創造」に関する活動拠点、瀬戸内海の各種対策のコーディネータとして、

(1)瀬戸内海の環境活動、環境学習に関する指導者のネットワーク構築、教材等作成提供

(2)瀬戸内海の栄養塩類や生物多様性等新たな課題に対する調査研究

(3)瀬戸内海に関する各種情報、データの収集・発信

の中心的な役割を目指して事業を進めることとする。

また、事業実施にあたっては、瀬戸内海に係る府県市、漁業団体、環境衛生団体の緊密な連携のもと、新たな水環境の考え方の一つである「(森・川・海の)流域管理」や「里海」をキーワードとしながら、環境省や瀬戸内海環境保全知事・市長会議、瀬戸内海研究会議との連携をさらに密にし、豊かで美しい瀬戸内海を後世に継承していくための事業展開を図っていく。

I 事業

1. 瀬戸内海の環境保全・創造に関する普及啓発、活動支援及び情報収集・提供

(1) 普及啓発・活動支援

①瀬戸内海環境保全月間事業の展開(昭和52年度～)

[1,781千円]

瀬戸内海の環境保全意識の高揚を図るため、次の事業を実施した。

ア、平成30年度瀬戸内海環境保全月間(期間:平成30年6月1日～30日)ポスターの配布・掲示

平成29年度に公募し、選定された最優秀作品を平成30年度瀬戸内海環境保全月間ポスターとして作成、関係機関に配布し、瀬戸内海環境保全月間に広く掲示した。

なお、最優秀作品、優秀作品については定時総会で表彰した。(平成30年5月23日)

・配布枚数:5,000枚

[平成30年度瀬戸内海環境保全月間ポスター最優秀作品・優秀作品]



最優秀賞 桑原 杏奈(小学生)
(徳島県吉野川市)



優秀賞 石田 涼菜(小学生)
(神奈川県海老名市)



優秀賞 内部 清美
(東京都杉並区)

イ、瀬戸内海環境保全月間ポスター原画の展示（平成22年度～）

定時総会及び瀬戸内海環境保全知事・市長会議総会と同日開催のシンポジウム「豊かで美しい瀬戸内海の再生『瀬戸内海における栄養塩類の管理の在り方を考える』」に合わせて、協会が保有している瀬戸内海環境保全月間ポスター入選作品の原画を展示し、環境保全の啓発を図った。

（定時総会）

- ・日時：平成30年5月23日
- ・場所：ラッセホール

（瀬戸内海環境保全知事・市長会議シンポジウム）

- ・日時：平成30年7月20日
- ・場所：兵庫県公館大会議室



定時総会時の原画展示と最優秀賞、優秀賞受賞者（左より山本郷史（環境省閉鎖性海域対策室長）、桑原杏奈（最優秀賞）、石田涼菜（優秀賞）、内部 清美（優秀賞）、井戸敏三（瀬戸内海環境保全協会会長））



瀬戸内海環境保全知事・市長会議総会に合わせて開催されたシンポジウムでの原画展示

ウ、平成31年度瀬戸内海環境保全月間ポスター募集・選定（平成11年度～）

平成31年度瀬戸内海環境保全月間に向け、環境省と共催で、ポスターの原画を募集し、入選作品を選定した。

- ・作品募集期間：平成30年7月2日（月）～11月30日（金）
- ・ポスター選定委員会の開催：平成31年2月8日（金）
- ・ポスター応募数：一般部門 154件 こども部門 140件 総数 294件

②瀬戸内海環境保全への支援

[3,597千円]

ア、「里海づくり」支援事業の展開(平成23年度～)

地域住民等に対する瀬戸内海の環境保全意識の啓発、理解及び活動参加の推進を図るため、会員府県市が実施する人と自然が共生する「里海づくり」に係る環境学習事業や環境ボランティア人材育成事業に対し、資材（水生生物下敷、水質パックテスト等）を提供し支援を行った。

- 支援対象事業
- ・自然観察会や子どもたちを対象とした体験的学習
 - ・環境ボランティアの人材育成事業

支援府県市：13府県17市

事業実施期間：平成30年7月1日（日）～平成31年1月31日（木）



広島市「環境サポーター養成講座」



豊中市「箕面川の水生物観察会」

イ、環境保全事業への支援（昭和52年度～）

環境衛生団体や漁業団体が取り組んでいる浜辺の清掃や環境美化等、各種環境保全・創造活動事業に対し、その活動費用の一部を助成した。

助成団体数：6 環境衛生団体、8 漁業団体

事業実施期間 平成30年4月1日（日）～平成31年3月31日（日）

③環境保全研修の実施

[6,009千円]

ア、瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム研修の実施（平成10年度～）

瀬戸内海を豊かで美しい海にするためには、様々な環境技術の継承や知識が求められており、新たに水環境保全業務に従事する職員を対象に、瀬戸内法や環境技術等、瀬戸内海の新たな取り組みについて、研修を行った。

- ・日時：平成30年9月26日（水）～28日（金）
- ・場所：山口県 山口県教育会館
- ・参加人数：27名（9府県17市1団体）
- ・講義：瀬戸内海環境保全の変遷と将来展望
講師 広島大学 名誉教授 松田 治
沿岸域の保全・再生及び瀬戸内海の藻場・干潟調査について
講師 環境省水・大気環境局閉鎖性海域対策室
ポイ捨てごみの行き着くところ
講師 山口大学 名誉教授 浮田正夫
山口県における瀬戸内海の再生の取組
講師 山口県環境生活部環境政策課
アマモ場再生の取組
講師 山口県漁業協同組合 柳井支店
海洋環境をめぐる国際的な動き
講師 （公財）国際エメックスセンター
- ・現地研修（講義と見学）
榎野川河口干潟、きらら浜自然観察公園等
講師：山口県自然保護課
- ・班別討議及び全体討議



講義



現地研修 榎野川河口干潟

イ、瀬戸内海的环境保全に関する各団体合同研修会の開催（昭和53年度～）

当協会設立の原動力の一つである環境衛生団体と連携を継続・維持していくため、同団体の合同研修会を共同で開催した。

- ・主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議、（一財）広島県環境保健協会、
（公社）瀬戸内海環境保全協会
- ・後援：広島県
- ・日時：平成30年11月29日（木）～30日（金）
- ・場所：広島市 ホテルセンチュリー 2 1 広島
- ・参加人数：76名
- ・講演：「里海づくりプロジェクト」について
（一財）広島県環境保健協会 環境生活センター 参事 平岡喜代典
- ・体験交流・意見交流：各府縣市連合会の実践活動報告
 - 1) 岡山県 沙美大好き！（倉敷市立沙美小学校）
 - 2) 広島県 水質浄化の取り組み 18年の歩み（尾道市中庄町衛生組合）
 - 3) 北九州市 『ほたると共生するまち南丘』人に優しい環境づくりの取組
（小熊野川河川愛護委員会）



開講式



講演

・現地視察

エネルギー総合研究所、(株)サタケ、酒蔵通り



エネルギー総合研究所



(株)サタケ

ウ、瀬戸内海的环境保全に関する賛助会員等研修会の開催(平成6年度～)

当協会の賛助会員であり、ともに瀬戸内海的环境保全に取り組んでいる企業間のネットワークづくりの場として、企業ニーズを踏まえながら研修会を実施した。

研修内容は、前回の研修会参加者へのアンケート結果を踏まえ、賛助会員部会で検討を行い決定した。

1) 第1回研修会

- ・日時：平成30年12月5日（水）
- ・講義・見学：①尼崎運河北堀キャナルベース・水質浄化施設（兵庫県尼崎市）
②（株）ジオレ・ジャパン（兵庫県尼崎市）
- ・参加人数：34名

2) 第2回研修会（座学）

テーマ：瀬戸内海を取り巻く海洋政策の動向～海洋基本計画と里海づくり～

- ・日時：平成31年1月22日（火）
- ・場所：ラッセホール
- ・基調講演：海洋基本法と海洋基本計画の進展
講師（公財）笹川平和財団海洋政策研究所 参与 寺島紘士
- ・講演：海洋基本計画と海洋産業について
講師（一社）海洋産業研究会 常務理事 中原裕幸
海洋環境の維持・保全と具体的施策について
講師 広島大学名誉教授 松田 治
海洋人材の育成と国民の理解～学校教育を中心に～
講師（公財）笹川平和財団海洋政策研究所 事業企画部長 酒井英次
- ・参加人数：67名

エ、特別講演会の開催

平成30年度定時総会の終了後、同じ会場で特別講演会を開催した。

- ・日時：平成30年5月23日（水）15:30～17:00
- ・場所：ラッセホール
- ・テーマ：沿岸海域における干潟・藻場の機能と役割
- ・講師：香川大学農学部教授 瀬戸内圏研究センター長 多田 邦尚
- ・参加人数：60名

④環境保全事業への参加・協力

[1,927千円]

ア、環境イベントへの参加・協力

他団体が主催する環境イベントにおいてパネル（里海・瀬戸内海フォトコンテスト入選作品等）の展示、資料、啓発物品の配布等を行い、瀬戸内海の環境保全の普及・広報に努めた。

- ・ひょうごエコフェスティバル2018（平成30年10月20日（土）～21日（日）県立明石公園）に出展し、環境クイズ等による広報活動を行った。

配布数：観察用ルーペ 180個、干潟ハンドブック等の冊子 11冊

イ、会員等主催事業への支援

会員及び関係機関が主催する各種環境保全事業へのパネルの貸出などの支援を行った。

貸出実績： 特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議

平成30年度瀬戸内海研究フォーラム in 兵庫

平成30年8月30日（木）～31日（金）

ウ、環境NGO・NPOとの連携・支援

瀬戸内海の環境保全等に努める環境NGO・NPOとの連携や支援を行った。

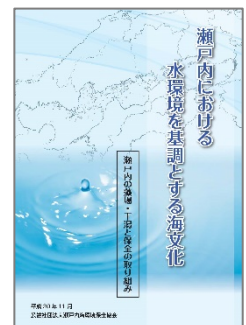
- ・「ほっといたらあかんやん！第15回大阪湾フォーラム」（平成31年3月9日（土））の後援

⑤海文化事業の推進(平成24年度～)

[2,580千円]

瀬戸内海がもつ自然や歴史、食文化等多様な地域資源を背景に、瀬戸内海で結ばれている地域住民の生活・文化の交流を通じて、環境保全への一層の意識醸成を図り、「豊かで美しい瀬戸内海」を実現するため、海文化委員会を開催し鷺尾圭司氏（水産大学校代表）など有識者の意見を聞きながら検討を進めた。

平成30年度は、「瀬戸内の藻場・干潟と保全の取り組み」についてまとめ、250部発行し、「瀬戸内の海・浜辺と保全の取り組み」について検討を進めている。



「瀬戸内の藻場・干潟と保全の取り組み」

⑥瀬戸内海環境保全に関する関係府縣市・団体との連携

[1,964千円]

ア、瀬戸内海再生に向けた取り組みの推進

瀬戸内海の生物多様性の確保、水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等、豊かで美しい瀬戸内海を取り戻すための施策が総合的、計画的に推進されるよう、平成16年から瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と連携して、種々の取組みを進めた。

イ、国に対する提案(昭和52年度～)

栄養塩の適正管理や藻場、干潟の保全等、単独の府県だけでは取り組めない瀬戸内海の広域的な課題の解決に向けた調査・研究に取り組むため、国に提案を行った。

- ・ 提案日：平成30年6月25日（月）～7月5日（木）
- ・ 提案先：環境省(24人)、水産庁(12人)、財務省(22人)、国土交通省(28人) 計86人

(提案事項)

・ 施策の推進

- (1)瀬戸内海の環境保全・再生・創出のための普及活動、環境教育・環境学習事業及び参加型環境保全活動事業並びに新たな視点での水環境を基調とした海文化を通じた環境啓発事業の推進
- (2)瀬戸内海の自然景観と文化的景観の保全と再生に向けた取組（自然、文化、歴史等の既存の情報収集とその広報活動を含む）
- (3)地域で活動している NPO 団体との連携による地域づくり活動の実施体制の構築（指導者やボランティアの育成）
- (4)漁業が持続可能な豊かな海づくりのための適切な栄養塩濃度レベルの維持及び円滑な物質循環の確保に向けた湾・灘ごと等の地域の実情に応じたきめ細やかな水質管理や順応的な取組の推進
- (5)藻場、干潟等の浅場の整備、環境配慮型護岸の整備、底質の改善、赤潮防止対策の推進、海ごみ（漂着、漂流及び海底ごみ）対策の推進など海域の環境の保全・再生及び創出
- (6)瀬戸内海特有の景観を活用し、エコツーリズム推進法に基づいたエコツーリズムを行うことにより、島しょ部等地域が持つ特有の魅力の再評価及び地域の活性化を図る事業の推進
- (7)水質浄化・物質循環に寄与する二枚貝等を捕食する有害生物対策の推進

・ 調査研究

- (8)瀬戸内海の環境データの収集とデータベース機能の充実（特に生物、藻場、干潟等の自然環境情報）及び瀬戸内海環境情報基本調査の継続実施
- (9)瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造に関する調査研究
- (10)瀬戸内海における外海からの環境影響に関する調査研究
- (11)海域の COD（化学的酸素要求量）環境基準に関する調査研究
- (12)施肥による栄養塩供給が海藻や貝類等の生物の成長等に与える影響に関する調査研究
- (13)瀬戸内海研究会議の調査研究及び普及・教育活動に対する支援

ウ、賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進を図るため、研修会の充実やセミナー等での広報に努めた。

エ、瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議（平成25年4月1日設立）の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進について支援・協力を行った。

- ・瀬戸内海研究フォーラムin兵庫（平成30年8月30～31日（木～金））への後援、開催協力
- ・瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ（平成30年12月18日（火））への後援、開催協力

オ、国際的な活動への協力

（公財）国際エメックスセンターが行う国際的な行事について協力を行った。

- ・エメックス国際セミナー（平成31年2月21日（木））への後援

(2) 情報共有・発信事業

瀬戸内海の環境保全にかかる現状や、瀬戸内海のあり方、行政施策に関する情報を収集し、今後の施策や事業の連携、協調を図るため、府県市、漁業団体、環境衛生団体等の会員をはじめ、関係する市民等に広く情報を発信し共有した。

①総合誌「瀬戸内海」の発行・配布（平成6年度～）

[4,370千円]

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を発行・配布するとともに協会ホームページに会員限定で掲載した。

- ・発行回数：年2回

第76号：平成30年9月発行 350部

特集 瀬戸内海と朝鮮通信使

第77号：平成31年3月発行 350部

特集 瀬戸内海における資源管理

- ・無償配布：会員団体（冊子）
- ・有償配布：年間購読者等（冊子）

年間購読料 2,500円（税込み）



「瀬戸内海」第76号

②資料集「瀬戸内海の環境保全—平成30年度版—」の作成（昭和53年度～）

[2,590千円]

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、資料集「瀬戸内海の環境保全—平成30年度版—」を作成しホームページに掲載した。（1年間は会員のみアクセスを限定）。

③協会ホームページによる情報の発信（平成10年度～）

[1,088千円]

瀬戸内海の環境保全に関する環境学習情報等を広く一般の方も容易に入手できるとともに、環境保全に取り組むNPOのネットワーク化にも役立つよう情報を発信した。

④メールマガジンによる情報の発信（平成23年度～）

会員府県市、漁業団体、環境衛生団体及び協会が有するトピックスを収集し、情報共有や施策立案等だけでなく、会員を通じた普及啓発に資する情報発信を行った。

2. 瀬戸内海の環境保全・創造に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業

[6, 653千円]

豊かで美しい瀬戸内海実現に資する調査・研究事業について、環境省等からの受託など外部資金の獲得を目指し活動を行い、次の事業をいであ㈱と共同で受託した。

①平成30年度瀬戸内海環境情報基本調査及び豊かな海の確保に向けた方策検討業務（平成27年度～ 環境省委託）

瀬戸内海をはじめとする閉鎖性海域では、水質汚濁防止法や瀬戸内海環境保全特別措置法による汚濁負荷量の削減等の取組が進められた結果、その水質は全体として改善傾向にある。一方で、赤潮や貧酸素水塊の発生といった問題も依然として確認されており、また、「豊かな海」の観点から、生物多様性・生物生産性の確保等の新たな課題への対応が求められている。

そのため、閉鎖性海域をめぐる新たな課題に対応するため、下記の項目を調査、検討した。

<調査検討項目>

- 1) 湾・灘ごとの水環境の変化状況の分析等
 - ①水質等の変化状況の分析等
 - ②水環境と生物多様性・生物生産性の関係に係る検討・評価
 - ③底質及び底生生物調査結果の分析等
- 2) きれいで豊かな海の確保に向けた取組に係る分析

本業務においては下記の委員で構成される有識者検討会が設置されている。

（委員長 広島大学教授 西嶋 渉、委員 大阪大学教授 西田修三他6名、関係機関として各府県の環境担当13名、水産庁）

第1回有識者検討会（平成30年7月13日（金） 神戸国際会館）

①有識者検討会の進め方（委員長に西嶋渉広島大学教授を選任）、②水環境等の変化状況の整理方針、③水質の変化状況の分析、④底質及び底生生物調査結果の分析、⑤栄養塩類と水産資源の関係の解析方針、⑥栄養塩類供給に係る順応的な取組の検討方針について審議いただいた。

第2回有識者検討会（平成30年10月10日（水） CIVI新大阪研修センター）

①水質の変化状況の分析、②底質及び底生生物調査結果の分析、③栄養塩類と水産資源の関係の解析、④水環境等の変化状況の整理、⑤栄養塩類供給に係る順応的な取組の検討について審議いただいた。

第3回有識者検討会（平成30年12月17日（月） 田中田村町ビル）

①水質の変化状況の分析、②底質及び底生生物調査結果の分析、③栄養塩類と水産資源の関係の解析、④水環境等の変化状況の整理の検討について審議いただいた。

第4回有識者検討会（平成31年2月27日（水） CIVI研修センター新大阪東）

①湾・灘ごとの水環境等の変化状況の整理、②栄養塩類供給に係る順応的な取組の検討、③平成30年度瀬戸内海環境情報基本調査及び豊かな海の確保に向けた方策検討業務 報告書（案）について審議いただいた。

II 一般事項

1. 会議等の開催

(1) 総会

① 定時総会（平成30年5月23日（水） ラッセホール）

- ・平成29年度事業報告及び決算
- ・会費の額
- ・国に対する提案
- ・平成30年度事業計画及び収支予算

(2) 理事会

総会付議事項及び業務の執行に関する事項を協議した。

① 第12回理事会（平成30年5月8日（火） 神戸市勤労会館）

- ・正会員の入会承認（八尾市、明石市）
- ・専門委員の委嘱
- ・定時総会付議事項

② 第13回理事会（平成31年3月15日（金） 神戸国際会館）

- ・平成30年度事業実施状況
- ・平成31年度事業計画案及び収支予算案

(3) 専門委員会等

① 企画委員会（平成31年3月8日（金） 神戸市勤労会館）

- ・平成30年度事業実施状況
- ・平成31年度事業計画案及び収支予算案

② 編集委員会

協会が発行する「瀬戸内海」の編集方針を定めるとともに、特集テーマや掲載内容及び執筆者等の検討を行った。

第1回編集委員会（平成30年9月18日（火） 神戸市勤労会館）

- ・「瀬戸内海」77号の原稿収集について
- ・「瀬戸内海」78号の特集について
- ・新シリーズ案について

第2回編集委員会（平成31年3月11日（月） 神戸市勤労会館）

- ・「瀬戸内海」77号（3月発行）の編集状況について
- ・「瀬戸内海」78号（9月発行）の原稿収集について
- ・第78号、79号の特集について

③ 海文化委員会

海文化事業の推進を図るため、情報の活用方策の検討を行った。

第1回海文化委員会（平成30年10月19日（金） 兵庫県民会館）

- ・「瀬戸内における水環境を基調とする海文化（瀬戸内の藻場・干潟と保全の取り組み）」の再編集結果について
- ・平成30年度「瀬戸内における水環境を基調とする海文化（瀬戸内の海・浜辺と保全の取り組み）」の作成状況について
- ・平成31年度の「瀬戸内における水環境を基調とする海文化」の取りまとめについて

第2回海文化委員会（平成31年3月20日（水） 兵庫県民会館）

- ・平成30年度「瀬戸内における水環境を基調とする海文化（瀬戸内の海・浜辺と保全の取り組み）」の再編集結果について
- ・平成31年度「瀬戸内における水環境を基調とする海文化（日々の生活に根ざした身近な景観と保全の取り組み）」の編集方針について

④賛助会員部会

協会活動に対する賛助会員の積極的な参画と賛助会員に係る事業の検討・企画を行った。

平成30年度賛助会員部会（平成30年8月23日（木） 神戸市勤労会館）

- ・平成30年度賛助会員に関する事業等について

部会委員：関西電力㈱、川崎重工業㈱、㈱神戸製鋼所、マツダ㈱、四国電力㈱
いであ㈱、大塚製薬㈱、山口県瀬戸内海環境保全協会

(4)参事・事務局長並びに担当課長会議（平成31年3月22日（金） ラッセホール）

会員に対する協会事業の理解と周知を図るとともに、事業活性化のため、会員相互の情報交換等を行った。

2. 専門委員の委嘱

企画委員、編集委員、海文化委員を委嘱した。

(1)企画委員（13名）

堀川 浩	大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長
菅 範昭	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長
河村敏成	広島県環境県民局環境保全課長
小蓑雅也	香川県環境森林部環境管理課長
芦刈光日出	大分県生活環境部環境保全課長
清水 浩	大阪市環境局環境管理部土壌水質担当課長
植木啓次	神戸市環境局環境保全部水・土壌環境担当課長
鍵本浩一	呉市環境部環境政策課長
若杉明弘	大分市環境部環境対策課長
渡辺英典	山口県漁業協同組合指導部長
岩森雅章	愛媛県漁業協同組合連合会参事

上田康二 (一財) 広島県環境保健協会地域活動支援センター長
平川雅昭 (公社) 山口県快適環境づくり連合会事務局長

(2) 編集委員 (10名)

池田翔太郎 (株) 神戸製鋼所本社環境防災部課長
小蓑雅也 香川県環境森林部環境管理課長
坂口 隆 環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室室長補佐
佐山 浩 関西学院大学総合政策学部教授
菅 範昭 兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長 (知事・市長会議事務局)
反田 實 兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター技術参与
仲西 健 (一財) 広島県環境保健協会地域支援課長
藤原建紀 京都大学名誉教授
由上 勤 関西電力 (株) 火力事業本部 火力運営部門発電グループ
チーフマネジャー
鷺尾圭司 (国研) 水産研究・教育機構 理事 (水産大学校代表)

(3) 海文化委員 (10名)

五十嵐正和 京都府環境部環境管理課長
菅 範昭 兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長
中谷茂正 和歌山県環境生活部環境政策局環境管理課長
二階堂日出伸 岡山県環境文化部環境管理課長
河村敏成 広島県環境県民局環境保全課長
小蓑雅也 香川県環境森林部環境管理課長
安藤公一 愛媛県県民環境部環境局環境政策課長
佐藤泰弘 兵庫県漁業協同組合連合会指導部指導担当課長
渡辺英典 山口県漁業協同組合指導部長
上田康二 (一財) 広島県環境保健協会地域活動支援センター長